

ストライキを武器に本格的反撃を

動労千葉

1988.9.19

No. 2893

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五、六（公衆）〇四七二二七、〇七

全国の国鉄労働者の先頭に 闘う仲間をけん引車へ！

9.11集会
報告③

九州の清算事業団の労働者です。

本日は、九・五国労門司地本のストライキにむかっただけの報告と、清算事業団闘争勝利にむけた決意を明らかにしていきたいと思えます。九・五ストライキは、日共・革同、協会派の裏切りによって延期されてしまった訳ですけれども、しかし、この九・五ストライキは国鉄労働者の持っているエネルギーを解き放ち、労働統一粉砕の流れをつくり出し、そしてどう闘えば勝利できるのかという大きな勝利の展望を明らかにし、同時に、誰がたたかうのか、誰がこのストライキを妨害し圧殺したのかをハッキリとさせました。



今年のはじめ清算事業団当局が「進路アンケート」をしました。ところがフタを開けて見たら広域採用に同じようという人は九州では百名だった。つまり、九州に残って原地原職を求めて闘うのだという労働者が圧倒的だ

重慶安なるのは職場からの 実行委員長 中野 洋



四月九日から五ヶ月ぶりに全国の仲間達と会えて非常にうれしい。四月の集会では、「JRR発足して一周年、いよいよ反

撃に打ち上がるぞ」と約束しまして、動労西日本や動労千葉もストライキに決起して現在も継続中である。この八月末から九月のはじめにかけて、西日本が新たな攻防に入るなかで、井面委員長はじめとしてストライキをやリ、国労の九州では、日共・協会の裏切りによって九・五ストライキが中止されたとはいえ下部組合員は大変な頑張りを展開した。

われわれは、この間の闘いの成果と、国労内で始った新たな闘いの台頭を含めて、本日の集会でもう一回意志統一して、年末に向けて頑張ろうという事です。

9・5ストライキにむけた闘いは 勝利の展望をみいだした—国労九州の仲間

また、地労委闘争を担当している弁護士が「ストライキを含む闘いをやりなさい」という要請書を国労中央と門司地本に出す。こうした流れの中で北九州、博多などの支部で職場討議がまきおこり、百歩ストライキ体制が確立した訳です。しかし、このなかで日共は、「時期早尚」等の理由をつけて、また協会派は一切、組合員とはストライキの討議をしないという対応をし、九月一日には「スト延期」が決定された。われわれは、この協会・革同の裏切りを許さない。

まず重要なのは、労働者の職場からの実力による決起である。他に依存して何かやってもらおうなんてダメだ。自分が苦しかったら闘う、自分が痛めつけられたら闘う。これが労働者であり、労働組合だ。

昨年十一月に「連合」が発足し、総評は八九年解散を決定した。日本の労働運動全体は、「これに乗り遅れたら大変」という気運が非常にただよっている。一方では、共産党・統一労働組合が極めてセクト的な運動をやっている。

労働統一が出来てしまうと、日本の労働者が全部支配されてしまうのかというと、私はそうではないと思います。全労連なんてのは労働組合ではない。「数」ばかり多くても、まったく砂上の楼閣にすぎない。ただ、分割・民営化のなかでも身にしみて感じたのだけど、鉄道労連みたいなファシスト組合が資本と結びついたら非常に大変だなと思う。

そういうふうに考えると、国鉄労働運動の前進のぐあいによってすべてが決まると私は思う。

国鉄の職場では怒りが渦巻いている。敵は手の中を出しつくした。こっちは、いくらでも手は残っている。秋のたたかいをみんなで作ろう！